

コリント人への手紙第一 6 章 1-11 節「互いに訴え合うことが敗北」

小池 宏明 師

大都会、コリントに誕生したキリストの教会は、その当時流行っていたギリシア哲学やローマの風習などの影響を強く受けていた。その影響は教会の兄弟姉妹の間にも入り込んで、教会は混乱していた。

*教会内の争いは教会内で解決を

6 章 1 節「あなたがたのうちには、仲間と争いを起こしたら、それを聖徒たちに訴えずに、あえて、正しくない人たちに訴える人がいるのですか。」コリントの教会では、信者が他の信者と争うと、裁判を起こすという問題が出ていた。ここで言う「正しくない人たち」とは、主イエス・キリストの御前で、信仰によって義と認められていない人々を指す。つまり未信者のこと。パウロは、教会内の争い事を、教会外の未信者に解決してもらおうとする兄弟姉妹たちがいることを嘆いている。私たちキリストの教会には、最もレベルが高い愛の律法が与えられている。主イエス様は、神を愛し、隣り人を自分のように愛しなさい、と命じておられる。それなのに、教会内の争い事を自分たちで解決できないのは、実に情けないこと、証しにならないことだ。

*不正を甘んじて受けよ

6 章 7 節では、主イエス・キリストのように不正な行いを甘んじて受けて、主の歩まれた道を見倣うように勧めている。「そもそも、互いに訴え合うことが、すでにあなたがたの敗北です。どうして、むしろ不正な行いを甘んじて受けないのですか。どうして、むしろ、だまし取られるままでいないのですか。」このことは、主イエス様ご自身がマタイの福音書 5 章 39-40 節で語っている。また、イエス様の年長の弟子ペテロは、ペテロの手紙第一 2 章 23 節でイエス様のお姿を証ししている。パウロは、いつも主イエス・キリストを見上げて、キリスト中心に生きていた。彼は、イエス様の言葉や、弟子たちの証言をよく覚えていて生活に適応している。

*聖さを求めなければ敗北

結局、教会は聖さを求め続けていかないと、7 節のパウロの言葉を借りるなら「敗北」するのである。聖さが無ければ、この世から入り込む罪悪を防ぐことができない。教会内で争いが起きていても、聖さが無ければ自浄作用が働かない。教会内に聖さが無ければ、未信者や聖書の原則を知らない裁判官に訴えて争いを解決しようとして、この世に証しを立てられない。

主イエス様が、私たちをこの罪悪の世界から召し出して下さった恵みをもう一度確かめて、ひたすら聖なるものを追い求めて生きていこう。